

こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

だましたヤコブ



ぶん
文: Edward Hughes

え
絵: M. Maillot; Lazarus

かいさくしゃ
改作者: M. Kerr; Sarah S.

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ
出版社: Bible for Children

www.M1914.org

©2007 Bible for Children, Inc.

きよか たにん う かぎ はなし また
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、
きよか
許可されています。





かみ

神さまは、もうみなさんのおうちに、かわい

あか

い赤ちゃんをとどけてくださいましたか？

それって、ほんとうにうれしいですね。

きっとイサクとリベカは、みんなの

にほい

二倍もうれしかったにちがいあり

かみ

ません。どうしてって、神さま

ふたり ふたご

は、二人に双子をくださったの
ですからね。



ふたご あか

双子の赤ちゃんは、リベカの

なか

おなかの中で大あばれ。

いの

リベカがお祈りしていると、

かみ

い

神さまが、こう言われました。

ふたり おとこ こ

「リベカ、二人の男の子は、

くに

二つの国をつくるだろう。

おとうと ほう

そして弟の方が、

あに

たいせつ

兄よりもっと大切にされ

るようになるだろう。」でも、

あに

ふつうは、たいてい兄のほうが、

たいせつ

大切にされたのですけれどね。さあ、

あか

う

ついに赤ちゃんたちが、生まれましたよ。



どうい^{ふたご}うわけか、その**双子**たちは、あまり**似**^にていませんでした。

兄^{あに}のエサウは、とても**毛深**^{けぶか}くて、**大**^{おお}きくなるにつれて、**狩**^{かり}がたい

そう**上手**^{じょうず}になりました。**弟**^{おとうと}ヤコブは、すべすべの**皮**^ひふで、

家^{いえ}の**仕事**^{しごと}を手**伝**^てうのが、**大**^{だい}好きでした。お父^{かあ}さんイサクは、**兄**^{あに}エ

サウの方^{ほう}を**愛**^{あい}しました。また、お母^{かあ}さんは、ヤコブの方^{ほう}が、

す
好^すきでした。



ある日のこと、エサウは、おなかがすいてたまりませんでした。「何か、^{なに}食べる^たものをくれないか？」エサウは、ヤコブに^い言いました。「それじゃ兄さん、私^{わたし}

^{ちょうなん}に長男のけんりをく
ださいよ。」ヤコブ

は、つよく^い言いまし
た。そのときエサウ

^{ちょうなん}は、長男にくださっ

^{かみ}た神さまのやくそくなど、^き気にも
しませんでした。「いいよ、
そうしよう。」エサウは、

ヤコブに^いそう^い言^いってし^いま^いった
^{ふたり}の^{とう}です。こうなると、二人のお父さん

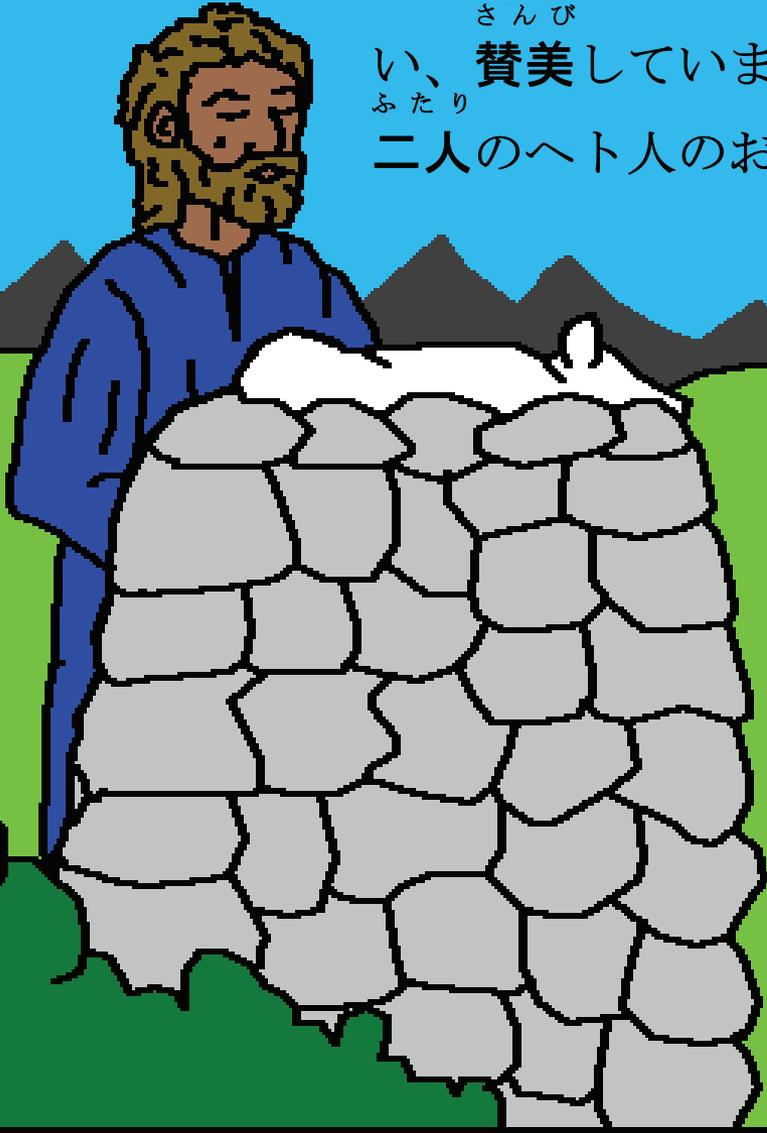
^なが^{とき}亡^なくなった^{とき}時には、ヤコブがかぞく

^{ちょう}の長となるのでしょ^うね。



ある夜、^よ神^{かみ}さまはイサクに^{はな}話しかけられました。「イサク、^{わたし}私^{ちち}はあなたの父アブラハムの神である。私は、いつもあなたといっしょにしよう！そして、あなたのしそん^{しゆくふく}をずっと祝^{さんび}福^{むすこ}しつづけよう！」イサクは、いつも神さまのことを思^{けっこん}い、^{ふたり}賛美^{かみ}していました。でもね、イサクの息子エサウが結婚した二人のへト人のおよめさんたちは、神さまのことなど、どうしても

よいと思^{おも}って^{ひと}いる人たちでした。





とし
イサクは、だんだん年をとってきました。「どう
わたし にく た
か、私にしんせんな肉を、食べさせておくれ。」イサ
い わたし
クはエサウに言いました。「そのあとで、私はおまえ
しゅくふく しゅくふく とう
を祝 福しよう。」このとくべつな祝 福は、お父さん
ちょうなん おく おおいそ
から長 男に送られるものでした。さあ、エサウは大急
かり
ぎ。さっそく狩にでかけました。ところが、リベカ
き
は、これを聞いてしまったのでした。リベカは、ヤコ
しゅくふく おも
ブが祝 福をうけてほしいと思っ
て
いました。





ひと けいかく
リベカは、一つの計画を思いつ
いそ
きましたよ。リベカは急いでイ
だいす りょうり つく
サクの大好きな料理を作りました。
そのあいだにヤコブはエサ
ふく き けぶか
ウの服を着て、毛深いどうぶつ
かわ くび て
の皮をかれの首や手に、まきつ
め
けました。イサクは、目がよく
み
見えません。これで、たぶんリ
ベカとヤコブは、イサクをだま
せるでしょうね。



りょうり

ヤコブは、料理をイサクのところへはこびましたよ。「おまえは、ヤコブのようだね。」

い

イサクは、こう言うから、「あれっ、でも

て げ

おまえの手は毛ぶかくて、まるでエサウの

い

ようだ。」と言いまし

しょくじ

た。食事が終わってか

じぶん

ら、イサクは、自分の

まえ

前でひざまずいている

しゅくふく

むすこヤコブを祝福

しました。



ヤコブがイサクの^でところ^いを出て行ってからすぐ、エサウがやってきました。「お
^{とう}父さん、さあ、^た食^{とう}べてください。お父さんの^{だいす}大好きな^{しょくじ}食事を^{つく}作りましたよ。」そ
こで、イサクは、ヤコブにだまされたことに

^き気がつきました。「ああ！なんていうこと

だ。^{わたし}私は、いちど^{しゆくふく}祝福したものを、
かえることはできないんだよ。」イサ

クは、こう^な泣きさけびました。エサ

ウの^{こころ}心は、もうヤコブへのにくし
みでいっぱいです。ヤコブを^{ころ}殺して
しまおうときめました。



リベカは、エサウがヤコブを殺すつもりだ**っ**て聞きつけました。「ヤコブ、大急
ぎでここを出て、おじさんの家**に**いくんだよ。兄さんのエサウが、あなたのした

ことを**わ**せてしまうまで、**戻**ってはいけないよ。

」と、リベカはこのように**い**いました。イサクは、

ヤコブが**か**れのお**か**さんの**う**まれたところ**に**

いって、お**よ**めさんをさがせば**い**い**お**も**い**、

さんせいしてくれました。さあ、ヤコブは、

いそ**で** **い**急いでうちを出て**い**きましたよ。



よる
その夜の事です。ヤコブは、石をま
やす

くらしにして休むことにしました。

ヤコブは、たぶんさびしかったでし
ょうね。こわかったでしよ

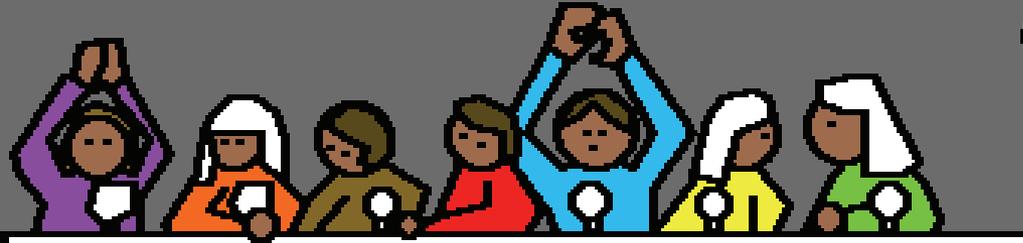
うね。でもね、ヤコブは一人
じゃなかったのですよ。だっ

て、神さまが、ゆめの中でヤ

コブとお話してくださ
ったのですから。



ヤコブのおじさんラバンは、ヤコブをよろこんでむか迎えてくれました
たよ。そこでヤコブは、いとこラケルにであ出会い、
すぐに好きになりました。ラケルと結婚けっこんさ
せてもらおうと思った、ヤコブは、かの女おも
のお父さんラバンのところで七年ものじよ
あいだ、いっしょうけんめいはた



らきました。ところが、
けっこんしき よる
結婚式の夜、ラバンはヤコブ
をだましたのでした。



「なんてひどい！ラケルじゃなくて、レアではありませんか。」ヤコブは、おこってい言わたしいました。「あなたは、私私をだましたのですね。」「いやいや、ここではね、一ばん上こたのむすめが、はじめに結婚しちねんせにやならんのだよ。」ラバンは、こう答けっこんえました。「まあね、あと七年はたらいてくれるのなら、ラケルともすぐに結婚けっこんできるよ。」そこで、ヤコブはそうおもすることだにしました。たぶん、このときヤコブは思おもい出だし

たでしょう。まえに、ちち父あにイサクと兄エサウをだましたことをね。



いつのまにか、ヤコブは、もう11人もの息子
にん むすこ
たちがいました。年としがすぎてゆくにつれ、ヤコ
ブは自分じぶんのかぞくをつれて、カナンへ帰かえりたく
てたまらなくなりました。ヤコブのお父とうさんや
お母かあさんがそこにいるのです。でも、ヤコブを
ころ 殺あにすとちかっていた兄エサウもね。



かえ
帰ってもだいじょうぶかな？ある日、神さまは、
い
ヤコブに言われました。「^{かえ}帰りなさい。」そこで、
じぶん
ヤコブはすぐに、^い自分のかぞくやヒツジやヤ
ぎのむれをあつめ、なつかしい^{いえ}家にむかっ
しゅっぱつ
て出 発しました。



それは、なんておおぜいの旅たびだったことでしょう。

そこへ、なんとよんひやくにん四百人ひともの人たちをつれたエ

サウがヤコブにあ会いにやってきましたよ。

けれどもエサウは、ヤコブをやっつけ

るためにき来たのではありません。エサウ

は、ヤコブのところにはし走りだししっかりと抱

きしめたのです。いまや、ヤコブとエサ

ウは、すっかりなかよしのきょうだい兄弟だでした。

こうして、とうとうヤコ

ブは、



ぶじに

いえ

家までもどれたのでした。



だましたヤコブ

かみ み せいしょ する
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

そうせいき しょう しょう
創世記 25 章 - 33 章

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、
おも
思っていらっしゃるのです。

かみ わたし かみ
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、していらっしゃいます。それを、神さま
は、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

かみ あい ひとり こ
けれども、神さまは、あなたをとも愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ
よ おく つみ じゅうじかじょう な
の世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさ
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま
いま ところ き なか す
は、今、あなたの所へ来て、あなたのところの中に住んでくさいます。そして、いつまでもいエスさま
まといっしょにいることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってくさい。

あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な
愛す神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ
てくさいました。そして、よみがえって、いまいることができますよ。

いらっしゃいます。どうか、私のころの中に来て、罪をゆるしてくさい。それで、私は今、あた
らしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいる
ことができますのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子としていることができますよう、たす
けてくさい。アーめん

せいしょ かみ ふくいんしょ
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなしましよう！ ヨハネによる福音書3：16

